

年間数百回の法廷に立つ千葉博弁護士による

短期を果たす合格法

1 司法試験・ロースクール入試で要求されるものはなにか

- ・ 司法試験・ロースクールで要求される人材とは
 - ・ 司法試験で試されるものは
 - 法曹の仕事から——法曹に要求されるスキルの変化
 - 司法試験制度改革の内容から——短期合格者の増加
- 知識ではなく、柔軟な思考力
当該法を操る基本的な思考が身についているか

2 具体的勉強法

①必要どころに絞って

試験で問われることに集中
基本的な条文・論点・判例知識
教材として何を使うべきか

②暗記ではなく理解につとめ、

民法→趣旨からの発想
刑法→保護法益から
憲法→人権の意義から

③理解したところは使える形で整理していく



LU16220

<設例>

業者 X は、公共工事の発注を自社にしてみらうべく、女性社員と公務員 Y との間で情交関係を結ばせた。X に贈賄罪は成立するか。

3 入門講座の具体的活用法

(1) 復習は100%を目指す

定義

条文の要件・効果

判例の結論

論点——キーワードの流れ

(2) 少しでもはやく手を広げる

入門講座をペースメーカーとして活用し、手を広げる

- 1 復習として、択一の肢ごとの問題を解く
間違えた問題は繰り返し
知らないところも国語の問題として解いていく
- 2 本番形式の択一問題集を解く
2冊を平行して解く
* 間違えたところは整理すべきか
単語カード化
論点ごとの整理は
択一六法の活用

3 基本的な論文問題にあたる

- ① 問題文を見て、自分なりに答案構成をする。
- ② 知らない論点については、論証調にまとめてみる。
- ③ 参考答案を読み込む。

(3) 自らの目指す法曹像を具体的に

エッセイ等を読む
法廷傍聴に行く

(4) 半年が経ったら

得意な科目は論文に
不得意な科目は
基本書は読むべきか

(5) 論文はいつから書きはじめるべきか

積極的なチャレンジを
添削を受けることは不可欠

4 最速で結果を出すためには一計画性をもった勉強を

<初期>

- ・ 合格する時期を決める（だらだら続けない覚悟）
それを前提に、この時期にやるべきこと、日々やることを明確にする
- ・ 重要なのは絞り込み（情報収集・人を使う）

<中間段階>

- この時期にやるべきことを意識する（問題演習・修正の要否・精神面対策）
問題演習に手を出していく（やるべきことにスッと手を出す。エビはダメ）
結果が出ないときの方向性のチェック（「努力の方向性を定期的にチェックしている」）
どのようにモチベーションを維持するか。自分の性格をよく知る。

<最終段階>

- 本番試験に特化した過去問対策
「来年こそ受けようと思います」の繰り返しの人
- 結果に振り回されない。
客観的な自己分析と不安感にさいなまれることは全く別